

The Molecular Biology Society of Japan

MBSJ NEWS

日本分子生物学会

2012.11

No.103

会報

目次

■ 第35回(2012年)日本分子生物学会年会開催のお知らせ(その3)――	1
■ 平成25年度(第35回)通常総会のご案内――	3
■ 第2回 富澤基金贈呈式のご案内――	3
■ 日本分子生物学会三菱化学奨励賞授賞式および受賞講演のご案内――	4
■ 男女共同参画委員会活動報告――	4
■ 日本分子生物学会 若手教育ランチョンセミナー2012―― 「研究者に必須なコミュニケーション力、発信力、国際力」	5
■ 第2回(2012年)富澤基金による研究助成の審査経過・結果報告――	6
■ 第3回(2013年)日本分子生物学会 若手研究助成募集のお知らせ――	7
■ 第18期理事選挙のご報告――	9
■ 第1回(2013年)日本分子生物学会国際会議支援 助成決定会議のご報告――	10
■ 第2回(2014年)日本分子生物学会 国際会議支援 募集のお知らせ――	11
■ 国際会議支援システム利用について――	12
■ 学会誌『Genes to Cells』に関するお知らせ――	13
■ 学術賞、研究助成の本学会推薦について―― ○山田科学振興財団2013年度研究援助のご案内	14
■ 各種学術集会、シンポジウム、講習会等のお知らせ―― ○第10回プロテインホスファターゼ国際カンファレンス	15
■ 第17期役員・幹事・各委員会名簿――	16
■ 賛助会員一覧――	18



特定非営利活動法人
日本分子生物学会

<http://www.mbsj.jp/>

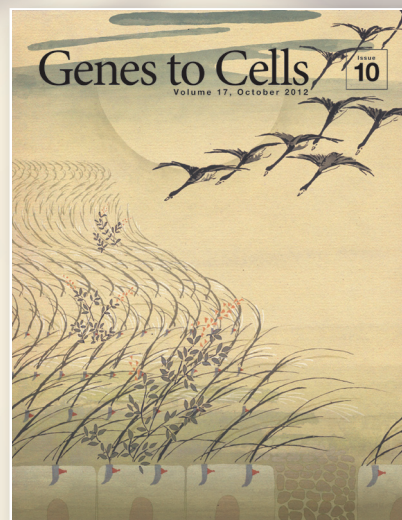
Genes to Cells

Published on behalf of the Molecular Biology Society of Japan

Edited by: Mitsuhiro Yanagida

Frequency: Monthly | Impact Factor: 2.680

日本分子生物学会の学会誌Genes to Cellsは、分子生物学の優れた研究成果を掲載し、著者にとって有益な学術情報や、先見性の高い最新の研究情報を提供しています。全世界で4,000以上の機関で読まれており、年間12,000件以上のダウンロード数を誇ります。是非Genes to Cellsにご投稿ください。



Genes to Cells 投稿の利点

- わかりやすく便利なオンライン投稿システム
- 出版までの過程をお知らせするAuthor Servicesをご利用いただけます
- 早期出版EarlyViewサービスにより、最新号への収載を待たずにオンラインで出版されます
- 出版後6ヵ月経過した全論文が無償公開となり、世界中からアクセス可能になります
- 出版されると直ちに無償公開となるオープンアクセスオプション『OnlineOpen』（有料）をご利用いただけます
- 2012年9月より、全ての総説は日本分子生物学会が費用を負担してOnlineOpenで公開中。

オンライン投稿はこちら
<http://mc.manuscriptcentral.com/gtc>

2010年・2011年出版 引用数TOP論文 *2012年9月現在

p62/SQSTM1 cooperates with Parkin for perinuclear clustering of depolarized mitochondria (Volume 15, Issue 8)
Okatsu, K; Saisho, K; Shimanuki, M; Nakada, K; Shitara, H; Sou, Y; Kimura, M; Sato, S; Hattori, N; Komatsu, M; Tanaka, K; Matsuda, N

Molecular mechanisms of the Keap1-Nrf2 pathway in stress response and cancer evolution (Volume 16, Issue 2)
Taguchi, K; Motohashi, H; Yamamoto, M

Selective autophagy regulates various cellular functions (Volume 15, Issue 9)
Komatsu, M; Ichimura, Y

ジャーナル閲覧ページ

www.wileyonlinelibrary.com/journal/gtc

日本分子生物学会の会員はオンラインジャーナルに無料でアクセスしていただけます。

ユーザー登録は学会事務局までお申し込みください。

日本分子生物学会事務局: info@mbsj.jp

登録後のアクセスに関するご質問は、
Wiley-Blackwellカスタマーサービスにて承ります。
Wiley-Blackwellカスタマーサービス: cs-japan@wiley.com

 **WILEY-BLACKWELL**

第35回日本分子生物学会年会 開催のお知らせ（その3）

～年会の新しいスタイルを模索する～

会 期：2012 年 12 月 11 日(火)～ 14 日(金)（4 日間）
会 場：福岡国際会議場、マリンメッセ福岡
年 会 長：阿形 清和（京都大学大学院理学研究科）
年 会 組 織 委 員：巖佐 庸（九州大学大学院理学研究院）
見学美根子（京都大学物質-細胞統合システム拠点）
小安 重夫（慶應義塾大学医学部）
篠原 彰（大阪大学蛋白質研究所）
諸橋憲一郎（九州大学大学院医学研究院）※ 50 音順
年会事務局連絡先：第 35 回日本分子生物学会年会事務局
〒 100-0013 東京都千代田区霞が関 1-4-2 大同生命霞が関ビル 18 階
日本コンベンションサービス株式会社内
Tel：03-3508-1214 Fax：03-3508-1302 E-mail：mbsj35@convention.co.jp
URL：http://www2.convention.co.jp/mbsj2012/

※年会開催の詳細は同封のプログラム集をご参照ください。

【年会の開催にあたって】

第 35 回日本分子生物学会年会
年会長 阿形 清和

1978 年に東京で開催された第 1 回の分子生物学会に参加したのは、私が京大の学部 4 回生の時だった。まさに遺伝子クローニングの黎明期で、アメリカのカーネギー研究所でカイコのフィブロイン遺伝子をクローニングして帰国してきた鈴木義昭さんに、学部生ながら直撃インタビューしたことを今でも鮮明に憶えている。そこには、新しいサイエンスの躍動があり、4 年生の私には超刺激的だった。そして、その 34 年後に、この巨大化した分子生物学会に、大会委員長として参加するとは-----。分子生物学の隆盛が、パーソナル・ゲノム時代の扉を開き、今回初めて年会に参加する学生たちは、パーソナル・ゲノム時代の幕開けを、時代の証言者として後世に伝えてくれるに違いない。

一時期、遺伝子クローニングの話に飽き飽きとした時代があったが、GFP を用いたビジュアル化や、クロマチン IP の開発、次世代シーケンサーの登場などによって、難航不落の要塞のように存在していた核内構造も、サイエンティストの手が届きつつある。分子生物学は、一時期の惰性的な時代から、ホールゲノム・シーケンスによって再び躍動の時代を迎えたといえよう。non-coding RNA とエピジェネティクスは、その象徴のような存在であり、新たなサイエンスの広がりを若者たちに感じさせてくれる。

そんな新たな息吹を、サイエンスのみならず、大会の発表や運営にも感じてもらおうというのが、今大会のコンセプトである。パーソナル・ゲノム時代の幕開けとともに、大会の IT 化はある意味セットとして連動していると考えられる。ゲノムデータや核内の三次元構造を各人がタッチパネルで操作しながら発表を聞いて質問する時代へと変貌していくに違いない。やがてゲーム感覚で、TALEN 法などで、ここのゲノムを編集したらこうなるのでは--みたいな、そんな双方向のコミュニケーションが大会の主流になる日も近いのではないだろうか。今回は、そこまでいかないまでも、夜ゼミのシステムなどを作り、IT 化による双方向コミュニケーションを年会に持ち込んだことは、将来の分子生物学会のあり方への仕掛けと考えてもらいたい。単なる IT 化ではなく、IT 化=双方向コミュニケーションと捉え、それにあわせて膨大なデータを使ったプレゼンが可能な時代へ、ルールを着々と敷いているつもりだ。今回の仕掛けを新たな時代の第一歩として、次の世代の飛躍を期待したい。

最後に今大会を運営するにあたり、大会委員長の多くのわがままを聞いてくださった組織委員、IT 化委員、JCS に感謝したい。

【プログラム】

シンポジウム

ワークショップ

ポスター

(※プログラム集に掲載された演題に加え、8月末の一般演題投稿締切後の新たな研究結果に基づく Late-breaking Abstracts 枠の発表も行われます。)

ショートトーク

フォーラム

バイオテクノロジーセミナー

第10回日本分子生物学会三菱化学奨励賞受賞講演

若手教育シンポジウム

男女共同参画企画

市民公開講座

機器・試薬・書籍等附設展示会

特別企画「HFSP シンポジウム」

「ナショナルバイオリソースプロジェクト (NBRP)」

「使ってみようバイオデータベース (NBDC)」

【参加登録に関するご案内】

○参加手続きについて

事前参加登録は10月31日(水)に締め切りました。

事前参加登録をされた方は、受付の必要はありませんので、11月下旬頃に送付する参加証(名札)をご着用の上、そのまま会場へご入場ください。なお、参加証は、年会ホームページより事前参加登録を行い、11月9日(金)までに参加費を振り込まれた方へのみお送りしております。参加費の振込みがない場合は、事前参加登録は無効ですので、会場にてあらためて当日参加登録を行ってください。

参加証には氏名と所属を記入し、年会会場では必ずご着用ください。参加証を着用されていない方の入場は固くお断りいたします(12月14日(金)市民公開講座を除く)。

◆参加登録受付窓口

窓 口	場 所	受付時間	受付内容
第1受付	福岡国際会議場 1階	8:00～18:00 (12月14日(金)は11:30まで)	当日参加登録受付・総合案内 学会入会・宿泊案内・他各種ご案内
第2受付	マリンメッセ福岡 1階	8:00～19:00 (12月14日(金)は14:15まで)	当日参加登録受付のみ ※窓口数が限られます。なるべく福岡国際会議場の参加登録受付をご利用ください。

◆当日参加登録費

正会員	学生会員	非会員	学部学生
10,000 円	6,000 円	13,000 円 ※プログラム集含む	学生証提示により無料 ※院生は対象外

※支払方法は現金、またはクレジットカード(VISA, MasterCard, JCB, American Express, Diners Club)となります。

平成25年度（第35回）通常総会のご案内

平成 24 年 11 月

会員各位

特定非営利活動法人 日本分子生物学会
理事長 小原 雄治

以下の要領で第 35 回通常総会を開催しますので、お知らせいたします。

昨年と同様に“開かれた”総会を目指し、マリンメッセ福岡 2 階休憩コーナー内に簡易特設会場を設置して開催いたします。年会全体プログラムの都合上、ポスター討論の時間帯と一部重なっての開催となりますが、多くの会員のご出席をお願い申し上げます。

ご存知のように、本学会は 2007 年に特定非営利活動法人となり、重要な案件は総会で決定されます。総会成立には、正会員＋名誉会員の 1/2 以上の出席（委任状を含む）が必要となりますので、会員皆様の積極的なご参加をお願いいたします。

なお、本年におきましてはプログラム集の発行時期との兼ねあいがあり、すでに総会案内通知および出欠はがき（委任状）は、新年度の会費請求書に同封して発送（11 月上旬）しています。ご都合がつかない場合には、必ず、委任状をご提出下さるようお願いいたします。

記

日 時：平成 24 年 12 月 12 日(休) 18：30～19：30

場 所：マリンメッセ福岡 2 階 休憩コーナー内特設会場

※総会当日、特設会場を設けます。

- 予定議題：1) 経過報告（理事長報告、庶務報告、編集報告、その他）
2) 24 年度（2012 年度）決算承認の件
3) 25 年度（2013 年度）予算ならびに事業計画承認の件
4) その他

※総会会場にて軽食（サンドイッチ・ジュース）をご用意いたします。

（先着順 / 数に限りがありますこと、ご了承ください）

第2回富澤基金贈呈式のご案内

「富澤純一・桂子 基金」による第 2 回（2012 年）日本分子生物学会若手研究助成の贈呈式を下記の要領により開催します。多くの方々のご参加をお願いいたします。

理事長 小原 雄治
基金運営委員会委員長 山本 正幸

日 時：平成 24 年 12 月 12 日(休) 19：30（総会終了後）～20：00 予定

場 所：マリンメッセ福岡 2 階 休憩コーナー内特設会場

第 2 回助成者：

伊原 伸治（国立遺伝学研究所構造遺伝学研究センター多細胞構築研究室）
王 丹（京都大学物質・細胞統合システム拠点）
鈴木 崇之（東京工業大学大学院生命理工学研究科）
宮田 淳美（京都大学大学院理学研究科生物科学専攻生物物理学教室）
山崎 正和（秋田大学生体情報研究センター）

日本分子生物学会三菱化学奨励賞授賞式および受賞講演のご案内

「第10回(2012年)日本分子生物学会三菱化学奨励賞」の授賞式および受賞講演を下記の要領により開催いたします。

- 日 時：2012年12月13日(木) 11:40～13:00
- 会 場：福岡国際会議場5階 第2会場
- 司 会：石野 史敏
(分子生物学会庶務幹事/東京医科歯科大学)

本年も奨励賞授賞式および同受賞講演をランチョン形式で開催します。

皆様のご参加をお待ちしています。

※先着順にてお弁当を用意します【整理券は不要です】

《授 賞 式》 11:40～12:00

《受賞講演Ⅰ》 12:00～12:30

齊藤 博英(京都大学 白眉センター、iPS細胞研究所 特定准教授)

(研究題目)

機能性RNAの分子デザインによる翻訳・細胞運命制御システム構築の研究

Translational regulation and cell fate control by constructing functional RNA molecules

《受賞講演Ⅱ》 12:30～13:00

鈴木 淳史(九州大学 生体防御医学研究所 准教授)

(研究題目)

肝臓における細胞分化と増殖のメカニズム

Mechanisms of liver cell differentiation and proliferation

男女共同参画活動委員会活動報告

男女共同参画委員会 委員長 後藤由季子
副委員長 塩見 春彦

1. 第35回日本分子生物学会年会に関連して

i) 演題発表者の属性調査について

今年も年会の演題投稿ページに属性調査項目が設定され、アンケートが行われました。昨年と同様、大変多くの方にご協力をいただき、ありがとうございます。現在、調査結果の集計を進めております。分析結果は今年の男女共同参画企画で発表し、また、年会場に調査結果をまとめたポスターを掲示いたします。

ii) 男女共同参画企画について

今年の男女共同参画企画は、下記予定で行います。

- 日 時：2012年12月11日(火) 11:40～13:00
- 会 場：福岡サンパレス パレスルームA・B
- テーマ：全員参加の生命科学研究を目指して
(パートⅡ：生の声を聞こう！)

本学会が男女共同参画企画を始めてからおよそ10年が経ち、男女共同参画委員会が今後果たすべき役割を改めて考える時期にきています。そこで昨年度と本年度の委員会企画においては、参加者の声を伺って今後の方針に反映していくことを目指しています。

昨年はレスポンスシステムを使って参加者のご意見を

伺いましたが、今年は他の参加者・研究者の意見、経験を知りたい、直接話し合う機会がほしいという声を反映し、ラウンドテーブルディスカッションを企画しました。

このラウンドテーブルディスカッションでは、「道を切り拓いてきた先達の話聞いて元気もらおう」「自分と同じような立場や悩みを持つ人の間で問題点や解決策をシェアしよう」を目的にテーブルごとにディスカッションリーダーや参加者と意見交換を進めていただきます。

本企画の詳細は、年会プログラム集、年会HPに掲載されておりますので、どうぞご覧ください。

皆さまのご参加をお待ちしております。

iii) 保育室の利用について

分子生物学会の年会で保育室が設置されるようになり、早11年が経ちました。年会保育室も利用者の要望にあわせ、サービスの向上に取り組んでくださっております。その一例として、今年の第35回年会では昼食時の対応について変更がありました。これまで保護者の方には、原則としてお子さんと一緒に昼食をとって下さるようお願いしておりましたが、今年は事前にお子さんの食事をご用意いただければ、別に昼食をとることが可能となっております。

分子生物学会の年会保育室は、他の理系学会の中でも

利用者数が多くなっております。今後も是非学会の設備を活用し、有意義な年会参加としていただきたいと思います。

2. 学協会連絡会委員会報告

i) 女子中高生夏の学校 2012 ～科学・技術者のたまごたちへ～

このイベントは、国立女性教育会館、日本学術会議が主催となって、女子中高生に、科学技術の世界の楽しさや、活躍する女性たちの生き方の魅力に触れ、科学技術に関心のある仲間や先輩と知り合うことを目的として開催されています。例年、分子生物学会の実験・実習企画が人気を集めておりますが、今年は沼山恵子会員による実習「オリジナル DNA ストラップを作ろう-遺伝暗号のしくみを学ぶ-」、岩脇隆夫会員によるポスター「最先端の「生き物」研究で活躍している道具たち」の展示とゲノム DNA のミニ実験、また、理系に進んだ先輩として牛島由理会員が生徒、保護者からのキャリア相談に協力しました。DNA ストラップの作成は、生徒からも予定枠を超える参加希望があっただけでなく、教員向けの

教育指導プログラムでも紹介され、多くの参加者から関心を集めておりました。

また、今回は夏の学校へ協力ボランティアを全会員に呼びかけ、有志の方にご協力いただきました。募集には、予想を大きく上回るお申し出をいただき、誠にありがとうございました。今後も中高生へ分子生物学の魅力を伝えること、また、理系進路選択の支援を続けていきたいと考えています。ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

ii) 学協会連絡会委員会より要望書の提出

2012 年 3 月、第 4 期科学技術基本計画および第 3 次男女共同参画基本計画への要望書として、「今こそ、科学・技術分野に多様性を-男女共同参画の加速に向けての要望-」を作成しました。これを、学協会連絡会に正式加盟する 35 学協会と 6 つのオブザーバー学協会が承認した内容として、文部科学省、内閣府男女共同参画局、総合科学技術会議他に提出しました。要望書の内容は、下記 URL よりご覧ください。

<http://annex.jsap.or.jp/renrakukai/request/index.html>

日本分子生物学会 若手教育シンポジウム 若手教育ランチョンセミナー2012

— 研究者に必須なコミュニケーション力、発信力、国際力 — (ケータイをつかった聴衆参加型シンポジウム)

●日 時：2012 年 12 月 12 日(休) 11:40～13:00
(年会 2 日目)

●会 場：福岡国際会議場 5 階
(第 2 会場) ※ 250 席

●司 会：小林 武彦 (遺伝研)
塩見美喜子 (東京大学)

第一部：講 演 (25 分)

洪 実 (慶應義塾大学医学部)

「グローバル化する科学のこれから—在米 20 年で見てきたもの—」

第二部：聴衆参加型パネルディスカッション (55 分)

「めざせ！ コミュプレ (コミュニケーション、プレゼンテーション) の達人」

パネリスト：日本分子生物学会・若手教育問題ワーキンググループ

小林 武彦 (遺伝研)、塩見美喜子 (東京大学)、五島 剛太 (名古屋大学)、後藤由季子 (東京大学)、斎藤 通紀 (京都大学)、上村 匡 (京都大学)、柳田 素子 (京都大学)、白髭 克彦 (東京大学)

※会場の皆様にはご自身の携帯電話・スマートフォンから専用サイトへアクセスしていただき、ご意見を前方スクリーンにリアルタイム表示する『ケータイアナライズシステム』を導入します。

本来、研究は個人で発想し、科学的手法により検証することを基本とします。しかし、技術の高度化、網羅性、迅速性、競争力が要求される今、一人で研究を完結することはほぼ不可能であり、研究体制の組織化や学際化は避けては通れない状況になってきています。これらを実現するには、周りの研究者と情報を交換し、そして議論する「コミュニケーション力」、加えて自分の研究を正しく理解してもらう「プレゼンテーション力」といった、一見「研究の本質」とは違う「社会性」をベースとした能力が必要とされるのは言うに及びません。しかし、ネットを通して溢れんばかりの情報が簡単に手に入るようになった昨今、直接かつ対人的コミュニケーションを苦手とする若手研究者は増加傾向にあり、一方で海外留学を通してグローバル化を図ろうとする若手は減少の傾向にあります。本シンポジウムの第一部では、幹細胞のシステム生物学の第一人者である慶應義塾大学の洪 実先生

に、世界に目を向けた「研究の、そして研究者のグローバル化」についてご自身の経験を交えつつご講演して頂きます。第二部では、「コミュニケーション力」「プレゼンテーション力」を研究活動の必須要素と位置づけ、それらを養う極意を極めたいと思います。本シンポジウムが若い研究者の方々の未来を切り開く一助にならんことをワーキンググループ一同、願ってやみません。

※お弁当には限りがありますので、12月12日(水)午前8時より、パイテクセミナー整理券引換デスク（福岡国際会議場1階 第1受付）にて『参加整理券』を発券します。第一部と第二部を通して議論に参加下さる方々にお配りします。

主催：特定非営利活動法人 日本分子生物学会

第2回（2012年）富澤基金による研究助成の審査経過・結果報告

基金運営委員会委員長 山本 正幸

「日本分子生物学会若手研究助成富澤純一・桂子基金」による第二回研究助成の最終審査を6月20日に行い、下記の5名の方々に助成を決定いたしました。審査は第一回と同じ基本的考え方により進めました。応募者は第一回より減少して105名、お名前からの推定で男性83名、女性22名でした。男女比率でみると女性が少し上昇しています。助成対象に選ばれたのは男性3名女性2名でした。

今回も応募者が日本分子生物学会会員であるかないかは審査員に明らかにされず、また審査過程で性別に配慮することはありませんでした。結果的に今回の助成対象者5名は全員が会員でしたが、ヒアリングに選んだ11名の方（男性8名女性3名）については9名が会員、2名が非会員とのことでした。

基金運営委員会および分子生物学会事務局では、この助成金が若手にとって少しでも使い勝手のよい研究推進資金となるよう努力を続けています。来年度以降も独創的な研究を掲げて奮ってご応募くださることを期待しています。

「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子基金」基金運営委員会
委員：山本 正幸（委員長）、岡田 清孝（副委員長）、阿形 清和、
小原 雄治、近藤 滋、塩見美喜子、嶋本 伸雄、谷口 維紹

■第2回（2012年）日本分子生物学会 若手研究助成の助成対象者

〈氏名・所属機関・研究題目 50音順〉

- 伊原 伸治 国立遺伝学研究所構造遺伝学研究センター多細胞構築研究室
基底膜の穴を制御する遺伝子の同定と分子機構の解析
(Identification and functional analysis of genes that regulate hole in basement membrane.)
- 王 丹 京都大学物質-細胞統合システム拠点
RNA転写後制御の時・空間解析による神経回路制御機構の解明
(4-D Analysis of Gene Expression in Living Neuronal Circuits Underlying Learning and Memory.)
- 鈴木 崇之 東京工業大学大学院生命理工学研究科
脳内の中枢シナプス結合と可塑性をコントロールする決定因子の解明
(Elucidating the Molecular determinants of connection-specificity and plasticity of central synapses in the brain)
- 宮田 淳美 京都大学大学院理学研究科生物科学専攻生物物理学教室
マウス細胞内における28S rRNA上に生じた紫外線損傷の修復
(In vivo reversal of a UV-induced adenine dimer on mouse 28S rRNA)
- 山崎 正和 秋田大学生体情報研究センター
平面内細胞極性を司る新規調節機構の解析
(Novel mechanism governing planar cell polarity)

第3回（2013年）日本分子生物学会 若手研究助成募集のお知らせ

2012 年 11 月

本学会では、一昨年、富澤純一博士と故・桂子夫人のご厚意を受け、「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」を立ち上げ、2011 年度より若手研究助成事業を開始いたしました。本研究助成は、生命科学の基礎的研究に強い熱意をもって携わっているが、必ずしも研究資金に恵まれていない若手研究者を対象にしており、助成金の使途を直接的な研究経費に限定しないという我が国ではユニークな助成制度であります。

2013 年度も以下のように募集いたします。助成をご希望の方は、下記の応募要項に従ってふるってご応募ください。

特定非営利活動法人 日本分子生物学会

理事長 小原 雄治

「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」

基金運営委員会委員長 山本 正幸

【応募要項】

1. 研究助成金の趣旨

分子生物学に関連する生命科学の基礎的な領域において独創的な研究を行い、将来の発展を期待し得る若手研究者に対して、「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」に基づいて助成します。選考に当たっては、本助成がその方の研究の発展にどれだけ効果的に寄与できるかという観点にも配慮します。

2. 助成金額

助成金額は、一人 300 万円。年度ごとの助成人数は 5 名。再度の応募を妨げません。

（10 年間で総額 1 億 5000 万円を助成予定）

3. 応募資格

- (1) 分子生物学に関連する生命科学の基礎的な領域において独創的な研究を行い、将来の発展を期待し得る 39 歳以下（＊ 1973 年 1 月 1 日以降に生まれた人）の若手研究者を対象とします。ただし、研究経歴において特別な事情がある場合は 39 歳を超えていても応募を受け付けます。
- (2) 日本分子生物学会会員・非会員は問いません。
- (3) 申請者の単独研究、または申請者が中心になって行っている共同研究を対象とします。

4. 研究助成金の使途、ならびに会計処理

- (1) 研究推進に関係することであれば、使途は限定しません（例えば研究時間を確保するためのベビーシッター費用、海外留学費用なども可）。
- (2) 本助成金は直接研究費以外にも自由度をもって使用できるものとします。そのために、原則、研究助成金は一時所得扱いとし、学会が源泉徴収を行います（50 万円を超える、250 万円につき 10% の源泉徴収を行います。分子生物学会が支払い調書を発行します）。
- (3) 助成金の全額または一部を所属研究機関の委任経理金扱いにされたい場合は対応しますので、お申し出ください。この場合、当該部分に対する源泉徴収はありません。ただし本助成から間接経費の負担は行いません。

5. 応募方法

申請書は、分子生物学会ホームページからダウンロードして使用してください。

- (1) 最初に、第 3 回（2013 年）日本分子生物学会 若手研究助成 申請サイトへアクセスし、所定の内容を送信してください。
- (2) 申請書（電子データ/PDF ファイル形式で最大 10 ページ以内に収めてください）と論文別刷（3 篇以内の電子データ/PDF ファイル）を添付ファイルの形で、kenkyujosei@mbsj.jp へメール送信してください。

(1)(2)の手続きは、その順番どおりに手配を行い、必ず締切日までに2点の手続きを完了するようにしてください。

事務局の資料確認・照合の都合上、(1)(2)の手続きは2日以内を目安に完了してください。(申請書、論文別刷ともに、提出いただくのは電子データのみです。オリジナルの郵送は必要ありません。)

*注意 ホームページ内に設置されます上記の「申請サイト」は、応募受付開始日より、その運用を開始します。

6. 応募受付期間と締切日時

●応募受付期間：2013年1月10日(木) 9:30～2月12日(火) 17:00

●締切日時：2013年2月12日(火) 17:00 (時間厳守)

7. 選考方法

基金運営委員会が選考に当たります。一次書類審査の後、ヒアリングを実施し、その結果により、採択者を決定します。

ヒアリングは2013年5月を予定しており、応募者本人がヒアリングに出席することを原則としますのでご注意ください。

「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」基金運営委員会

委員：山本 正幸 (委員長 / かずさ DNA 研究所)

岡田 清孝 (副委員長 / 基礎生物学研究所)

阿形 清和 (京都大学大学院理学研究科)

近藤 滋 (大阪大学大学院生命機能研究科)

塩見美喜子 (東京大学大学院理学系研究科)

嶋本 伸雄 (京都産業大学総合生命科学部)

谷口 維紹 (東京大学生産技術研究所)

大隅 典子 (職指定委員・第18期理事長 / 東北大学)

8. 研究助成金の交付

2013年6月までに指定銀行口座に送金予定です。

委任経理金にする場合は、各大学等で定められている取扱い規定、その手続きにより交付します。

9. 贈呈式

第3回研究助成対象者については、原則として、2013年12月の第36回日本分子生物学会年会(神戸)における富澤基金贈呈式(総会)への出席を要請します。

10. 研究成果公表

本助成金を使用した研究成果を、学術雑誌等に公表する場合は、「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」(Tomizawa Jun-ichi & Keiko Fund of Molecular Biology Society of Japan for Young Scientist)から助成を受けた旨を明記してください。また、同刊行物の別刷等を1部、本学会事務局へ提出してください。

11. 研究成果および会計報告

(1) 本助成金受領者は、助成金を受領した翌々年の5月末までに、研究成果と会計報告の概要を、「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」基金運営委員会あてに提出してください。様式は問いません(一時所得扱いの受領者は、会計報告に際して、領収書の提出は不要です。使途の一覧を提出ください)。

(2) 本研究助成の贈呈対象者として、相応しくない行為があった場合には、助成金の返還を求めることがあります。

12. 本研究助成の趣旨に賛同し、基金への拠金をお考えくださる方は、分子生物学会事務局気付・基金運営委員会までお申し出ください。

*その他

有志の方々へ

分子生物学の振興に向けた、各種基金のご寄付をお考えの方がおられましたら、是非ともご連絡ください。日本分子生物学会が責任を持って対応・運用いたします。

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-11-5

人材開発ビル 4階

特定非営利活動法人 日本分子生物学会

「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」基金運営委員会

TEL. 03-3556-9600 FAX. 03-3556-9611

E-mail: kenkyujosei@mbsj.jp

第18期理事選挙結果のご報告

2012 年 11 月

会員各位

特定非営利活動法人 日本分子生物学会

過日、実施されました、第 18 期理事選挙につきまして、以下の通りに投票結果をご報告いたします。(第 18 期理事の任期は 2013 年 1 月から 2014 年 12 月までの 2 年間です)

- 選挙公示日 2012 年 6 月 12 日(火) (会報 102 号発送)
- 投票期間 2012 年 6 月 22 日(金) 9:30 ~ 7 月 12 日(木) 18:00
- 開票日 2012 年 7 月 13 日(金)
- 開票場所 日本分子生物学会事務局
- 開票立会人 第 18 期理事選挙・選挙管理委員会 (飯野雄一 委員長、漆原秀子 委員、大杉美穂 委員) および第 17 期庶務幹事 (石野史敏)
- 有権者数 14,141 名
- 投票者数 760 名
- 投票総数 7,600 票 (うち白票 2,216 票)

○当選者 (50 音順)

阿形 清和 (京大・理)	塩見美喜子 (東大・理)
荒木 弘之 (遺伝研)	篠原 彰 (阪大・蛋白研)
五十嵐和彦 (東北大・医)	島本 功 (奈良先端大・バイオ)
石川 冬木 (京大・生命)	高橋 淑子 (京大・理)
一條 秀憲 (東大・薬)	田中 啓二 (都医学研)
上田 泰己 (理研・CDB)	月田早智子 (阪大・生命機能)
上村 匡 (京大・生命)	長田 重一 (京大・医)
大隅 典子 (東北大・医)	中山 敬一 (九大・生医研)
大隅 良典 (東工大・フロンティア研究機構)	西田 栄介 (京大・生命)
岡田 清孝 (基生研)	花岡 文雄 (学習院大・理)
後藤由季子 (東大・分生研)	町田 泰則 (名大・理)
小原 雄治 (遺伝研)	三浦 正幸 (東大・薬)
近藤 滋 (阪大・生命機能)	山本 正幸 (かずさ DNA 研究所)
相賀裕美子 (遺伝研)	山本 雅之 (東北大・医)
佐々木裕之 (九大・生医研)	渡邊 嘉典 (東大・分生研)

以上 30 名

- 本選挙において、当選者の中から 1 名の理事就任辞退者が出ました。「理事選挙に関する選挙管理委員会内規」に基づき、選挙管理委員長と現理事長で協議を行い、その結果、次点者を繰上げ当選としました。

○第 18 期理事長選任について

2012 年 10 月 27 日、東京で開催されました第 18 期新理事会準備会議において、大隅典子氏 (東北大学大学院医学系研究科・教授) が第 18 期理事長 (任期: 2013 年 1 月より 2 年間) に選出されましたので、ご報告いたします。

第1回（2013年）日本分子生物学会国際会議支援 助成決定会議のご報告

第1回目となる日本分子生物学会国際会議支援については、選考委員会における慎重な審査を経て、以下の4会議が採択されましたこと、ここにご報告いたします。

特定非営利活動法人 日本分子生物学会

第17期 国際会議支援・選考委員会

西田 栄介（委員長）、篠原 彰、杉本亜砂子、月田早智子、三浦 正幸

■会議名称：

（和文）第4回ミトコンドリア・ダイナミクス国際会議

（英文）4th International Symposium on Dynamics of Mitochondria（略称：DynaMito2013）

開催責任者：岡本 浩二（大阪大学大学院生命機能研究科・特任准教授）

会 期：2013年10月28日(月)～11月1日(金)

会 場：沖縄残波岬ロイヤルホテル（沖縄県中頭郡読谷村）

助成金額：250万円

■会議名称：

（和文）酵母からのエピジェネティクス研究へのメッセージ～酵母が明らかにする生命科学の最先端～

（英文）Message from yeast to Epigenetics～Yeast clarifies the frontiers of life science～

開催責任者：沖 昌也（福井大学大学院工学研究科・准教授）

会 期：2013年9月2日(月)～4日(水)

会 場：グランディア芳泉（福井県坂井市）

助成金額：200万円

■会議名称：

（和文）第10回プロテインホスファターゼ国際カンファレンス

（英文）10th International Conference on Protein Phosphatase

開催責任者：中釜 斉（国立がん研究センター研究所・所長）

会 期：2013年2月7日(木)～9日(土)

会 場：がん研究振興財団 国際研究交流会館（東京）

助成金額：150万円

■会議名称：

（和文）第8回細胞シグナリングに関する日韓若手交流会議

（英文）The 8th Japan-Korea Conference on Cellular Signalling for Young Scientists

開催責任者：八木澤 仁（兵庫県立大学大学院生命科学研究科・准教授）

会 期：2013年11月6日(水)～9日(土)

会 場：イーグレひめじ（兵庫県姫路市）

助成金額：100万円

第2回（2014年）日本分子生物学会 国際会議支援 募集のお知らせ

2012 年 11 月

前年度に引き続き、2014 年（2014 年 1 月～12 月）に開催計画のある国際会議に対しまして、支援事業（開催補助金の助成）を行いますので、お知らせいたします。

科学のグローバル化が進む一方で、国際会議を通しての情報の交換は科学の大きな必須手段の 1 つとなっています。しかし、日本で開催される質の高い国際会議の数は増えていない状況があります。また、関連分野の最新の研究に若い時から接することは優秀な研究者を育てる上で要の 1 つと考えられます。本支援は、日本（あるいはアジア）発の originality の高い国際会議を育て、若手研究者をサポートすること、日本発の研究を世界に向けて発信する場を設けることを目的として立ち上げられました。

本国際会議支援（開催補助金の助成）を希望される方は、下記の要項に従って、ふるってご応募ください。

特定非営利活動法人 日本分子生物学会

理事長 小原 雄治

■募集要件

1. テーマ：分子生物学の分野ならどのような分野でも可—新しい領域、外国では見受けられないユニークなテーマが望ましい。
2. 開催規模：参加人数は 50 名以上 200 名程度までとし、そのうち外国からの参加者が少なくとも 20% 程度いること、さらに口頭発表者の中で外国人が 3 割以上を占めることが望ましい。
3. 開催の形式：
 - 1) 分子生物学会会員が主催者あるいは共同主催者であること。教育・研究機関の主催、研究費主催のものは除きます。（組織委員（国内）については、できるだけ本学会への入会を推奨します）
 - 2) 共催：他の団体との共催は可とするが、その場合、参加費に関して分子生物学会会員価格（特に学生会員を考慮されたい）が設定されていることが望ましい。
4. 留意事項：
 - 1) できる限り、国内の若手研究者の口頭発表の機会を作ることが望ましい。
 - 2) 本学会年会のサテライト会議（年会会期前後または近い時期での開催。開催場所は問わない）とすることが望まれるが、他の時期・場所での開催も可能である。
 - 3) 会議開催に際しては、分子生物学会が用意している支援システム（JTB 西日本による国際会議トータル支援システムを長期契約のもとに割安価格で使用）、①基本システム代金：23 万円（事前参加登録受付・演題投稿受付・カード決済等の基本システム設定）、②オプション / メイン HP 代金：25 万円（全体デザイン・ページレイアウト・サーバ管理 12 ケ月・更新メンテナンス 12 ケ月）、③オプション / オンライン査読システム：8 万円、④オプションその他、のうち 基本システム①を必ず使用することを応募条件とします。
 - 4) 支援が決定した後は、主催者は各種の報告書・広報ポスター・国際会議 HP 等に本学会からの支援を受けて開催されることを、表示する義務を負うものとします。
 - 5) 残金が出た場合、補助金の返還を求めることがあります。

■開催補助金と件数

援助する金額は、一件あたり 200 万円～300 万円。年間 2～3 件。開催期間・参加予定人数によって金額の変動あり。学術振興会の国際会議等の大型支援を助成された場合は多少の減額あり。

（補助金の使用用途は限定せず自由度を持つものとします。他経費で補えないものが望ましい。ただし国際会議終了後、本学会への会計報告（収支決算書概要）提出の義務を有します。また、分子生物学会から支援を受けたことを、HP、要旨集などに明記いただきます。）

■応募方法

申請書は、分子生物学会ホームページからダウンロードして使用してください。

所定の申請書に、国際会議の目的、形態、予定講演者、おおよその予算規模と使用用途等を記載し、学会へ提出してください。

■申請書送付先

〒102-0072 千代田区飯田橋 2-11-5 人材開発ビル 4 階

日本分子生物学会 国際会議支援・選考委員会 御中

TEL：03-3556-9600

E-mail：info@mbsj.jp

■締切期日 2013 年 2 月 28 日(木) (必着)

■スケジュール (開催補助金の交付)

- 2013 年 2 月 28 日：応募締切
- 2013 年 3 月～4 月：選考
- 2013 年 5 月：補助金の交付 (予定)

■選考

国際会議支援・選考委員会が選考に当たり、理事長承認のもとに決定します。

(※ 2013 年 1 月より第 18 期新理事会に移行します。本事業の審査についても、第 18 期理事会内に設置されます「国際会議支援・選考委員会」がその選考の任にあたります。委員会構成は決まり次第、学会 HP でお知らせいたします。)

分子生物学会による、国際会議支援システム

(参加登録～演題受付～カード決済／Web運用) 利用のご案内

分子生物学会では、日本発の国際会議を学会が支援するために経済的支援を行うことに加え、国際会議を開催する研究者の事務的な負担を減らすため、支援システム (JTB 西日本による国際会議トータル支援システム/Web 運用) をご用意しております。国際会議支援の詳細は同公募要項の中に書かれておりですが、同支援事業の応募とは別に、システムのみを使用されたいとの希望者につきましては、分子生物学会の会員であれば同額での利用が可能です。

システムのみを使用されたい場合は、学会事務局 (分子生物学会 国際会議支援システム・システム利用係 E-mail：info@mbsj.jp) まで E-mail にて、開催概要と連絡先を明記のうえ、お申込みください。(一旦、学会を経由してから、JTB 西日本の担当者をご紹介します)

《支援システムの概要》

本学会が JTB 西日本と長期契約を交わしたことにより、JTB 西日本による国際会議トータル支援システムを通常より割安価格で利用できます。

- ①基本システム代金：23 万円 (事前参加登録受付・演題投稿受付・クレジットカード決済等の基本システム設定)
- ②オプション / メイン HP 代金：25 万円 (全体デザイン・ページレイアウト・サーバ管理 12 ケ月・更新メンテナンス 12 ケ月)
- ③オプション / オンライン査読システム：8 万円
- ④オプションその他、が利用できます。(メニュー詳細については、一旦、学会を経由した後、JTB 西日本の担当者が説明いたします)

なお、この支援のみを受ける場合も、分子生物学会の支援 (システム利用) を受けたことを当該会議の HP、要旨集などに明記いただきます。

学会誌『Genes to Cells』に関するお知らせ

『Genes to Cells』は、投稿規程の大幅な改訂により、一層幅広い分野の研究者の皆様から論文を投稿していただけのようにしました。ご投稿の前には、ご自身の研究内容に近いエディター・アソシエートエディターへのコンタクトも可能です。もし適当な方がおられない場合は、編集室 office@genestocells.jp 宛にお気軽にご相談ください。

また、掲載と同時にオープンアクセスとなり、世界中からフリーでアクセスすることができる「Online Open」ですが、総説についてはその費用を学会負担にてご利用いただけるようになりました。ご投稿の際には是非ご検討ください。

さらに、会員向けのメール配信および学会ホームページでの公開により、論文タイトルの日本語版について、最新論文へのダイレクトリンクも可能にしています。『Genes to Cells』が生命科学の幅広い分野を対象としていることを改めてご理解いただき、引き続き本誌へのご投稿をお願いします。

個人会員（正会員、名誉会員、学生会員）はオンライン版のフリーアクセスが可能ですので、ご希望の方は学

会事務局（info@mbsj.jp）へメールにてお申し込み下さい。

日本の伝統絵画の中に生命科学の遊び心を加えた表紙もぜひご覧ください。2011年分のカバーアートを元にした通販グッズ（ポストカードとクリアファイル）の購入も、学会ホームページからご案内しています。

【プリント版の会員特別価格購読について】

本学会の会員は、『Genes to Cells』の冊子版を会員特別価格で購読することができます。学会ホームページから申込書をダウンロードし、必要事項を記入のうえ学会事務局へお送り下さい。サンプルのご依頼にも対応しています。

2012年も購読中の方には、記入が簡単な継続専用の申込書を別途お送りしましたので、そちらをご利用のうえ学会事務局へご返送をお願いします。

※ 個人購読料 16,500 円／年（正会員、学生会員）
機関購読料 35,000 円／年（賛助会員）

編集幹事 上村 匡

学術賞、研究助成の本学会推薦について

本学会に推薦依頼あるいは案内のある学術賞、研究助成は、会報 No.102 (6月号) および学会 HP に一覧として掲載しております。そのうち、応募にあたり学会等の推薦が必要なものについての本学会からの推薦は、本学会賞推薦委員会または研究助成選考委員会の審査に従って行います。応募希望の方は、直接助成先に問い合わせ、申請書類を各自お取寄せのうえ、ふるってご応募下さい。

本学会への推薦依頼の手続きは次の通りです。

1. 提出物

- 1) 本申請に必要な書類 (オリジナルおよび募集要項に記載されている部数のコピー)
- 2) 本学会の選考委員用および学会用控に、上記申請書類のコピー計 6 部
- 3) 申込受付確認のための返信封筒 (返信用の宛名を記入しておいて下さい)
- 4) 論文 (別刷は各種財団等応募先の必要部数をご用意下さい。委員会用の論文別刷は不要です)

2. 提出先

※賞推薦についての送付先

日本分子生物学会・賞推薦委員長 小安 重夫
〒102-0072 千代田区飯田橋 2-11-5
人材開発ビル 4 階

日本分子生物学会事務局気付

※研究助成についての送付先

日本分子生物学会・研究助成選考委員長 西田 栄介
〒102-0072 千代田区飯田橋 2-11-5
人材開発ビル 4 階
日本分子生物学会事務局気付

3. 提出期限

財団等の締切りの 1 カ月前まで。提出期限後に受取った場合や、提出書類が不備な場合は、選考の対象にならないことがあります。推薦手続きのことでご不明な点がありましたら、学会事務局までお問合わせ下さい。

4. 留意事項

学会推薦した会員が財団等の研究助成対象者となった場合には、その研究成果を将来、学会誌「Genes to Cells」に論文あるいは総説として発表して頂くように要請いたします。応募に際しては、その旨をご了解くださるようお願いいたします。

○山田科学振興財団 2013 年度研究援助のご案内

山田科学振興財団では、自然科学の基礎的研究に対して、研究費の援助をいたします (実用指向研究は援助の対象としません)。

- 1) 萌芽的・独創的研究
- 2) 新規研究グループで実施される研究
- 3) 学際性、国際性の観点からみて優れた研究
- 4) 国際協力研究

- 援助額は 1 件当たり 100 ～ 500 万円、総額 3,000 万円、援助総件数は 15 件程度。

【分子生物学会の学会推薦枠は 5 件です】

- 援助金の使用期間は、贈呈した年度及びその次の年度の約 2 年間とします。
- 申請者資格
 1. 当該研究を独立して実施し得る者。すなわち、当該研究者は代表研究者であることを必要とする。
 2. 身分、経歴、年齢等は問いません。但し、日本の研究機関に所属する研究者であることが必要。

- 分子生物学会への応募 (学会推薦) 締切：
2013 年 1 月 31 日 (木)
- 山田科学振興財団申込み期限締切：
2013 年 2 月 28 日 (木)

- 申請手続き詳細は、山田科学振興財団ホームページ (2013 年度研究援助のページ) にてご確認ください。
<http://www.yamadazaidan.jp/enjyo2.html>

《問合せ先》

公益財団法人 山田科学振興財団
(Yamada Science Foundation)
〒544-8666
大阪市生野区巽西 1 丁目 8 番 1 号
電話 (06) 6758-3745 (代表)

各種学術集会、シンポジウム、講習会等のお知らせ

◇第10回プロテインホスファターゼ国際カンファレンス

会 期：2013 年 2 月 7 日(木)午後～9 日(土)午前

会 場：(公財)がん研究振興財団 国際研究交流会館
(東京 築地 国立がん研究センター敷地内)

組織委員長：中釜 斉 (独立行政法人国立がん研究センター研究所 所長)

主 催：日本プロテインホスファターゼ研究会

後 援：日本分子生物学会

特別講義後援：武田科学振興財団

参加費：無料・事前登録制

《カンファレンステーマ：疾病とホスファターゼ》

海外招待演者

- Mathieu Bollen (Katholieke Univ., Belgium)
- Shirish Shenolikar (Duke-NUS Grad. Med. Sch., Singapore)
- Benjamin G Neel (Ontario Inst. Cancer, Canada)
- David Brautigan (Univ. Virginia, USA)
- Tzu-Ching Meng (Inst. Biol. Chem. Academia Sinica, Taiwan)

○ Alexandra Newton (Univ. California San Diego, USA)

○ Fawaz G. Haj (Univ. California Davis, USA)

○ Sheila Harroch (Inst. Pasteur, France)

特別講演

○ 近藤 孝男 (名古屋大学・理)

シアノバクテリアの一日を刻む時計蛋白質 KaiC

○ Carl-Henrik Heldin (Ludwig Inst. Cancer Res., Sweden)

Signaling via receptors for PDGF and TGFβ

• Web ページ <http://rgsv.net/icpp10/>

• 演題募集開始：10/1 (月) 演題募集締め切り：11/9 (金)

• 参加登録開始：10/1 (月) 参加登録締め切り：12/7 (金)

• 大会事務局

Access Brain Inc. 内

Fax: +81-3-3839-5035

Tel: +81-3-3839-5032

E-mail: icpp10@accessbrain.co.jp

第17期役員・幹事・各委員会名簿

理事長

(任期：2011年1月1日～2012年12月31日)

小原 雄治 (遺伝研)

副理事長

相沢 慎一 (理研・CDB)

大隅 典子 (東北大・医)

理事

阿形 清和 (京大・理)

五十嵐和彦 (東北大・医)

上田 泰己 (理研・CDB)

影山龍一郎 (京大・ウイルス研)

後藤由季子 (東大・分生研)

塩見 春彦 (慶應大・医)

杉本亜砂子 (東北大・生命)

谷口 維紹 (東大・生産研)

永田 恭介 (筑波大・人間総合科学)

鍋島 陽一 (先端医療財団先端医療センター)

花岡 文雄 (学習院大・理)

水島 昇 (東大・医)

柳田 充弘 (沖縄科学技術大学院大学)

米田 悦啓 (阪大・生命機能)

審良 静男 (阪大・IFReC)

石川 冬木 (京大・生命)

貝淵 弘三 (名大・医)

五條堀 孝 (遺伝研)

小安 重夫 (慶應大・医)

白髭 克彦 (東大・分生研)

田中 啓二 (都医学研)

月田早智子 (阪大・生命機能)

中山 敬一 (九大・生医研)

西田 栄介 (京大・生命)

三浦 正幸 (東大・薬)

宮園 浩平 (東大・医)

山本 雅之 (東北大・医)

(50音順)

監事

勝木 元也 (JSPS・学術システム研究センター)、町田 泰則 (名大・理)

幹事

庶務幹事 石野 史敏 (東医歯大・難治研)

会計幹事 塩見 春彦 (慶應大・医)

編集幹事 上村 匡 (京大・生命)

広報幹事 荒木 弘之 (遺伝研)、篠原 彰 (阪大・蛋白研)

集会幹事 諸橋憲一郎 (九大・医 / 第35回年会)

Genes to Cells 編集長

柳田充弘 (沖縄科学技術大学院大学)

Genes to Cells 将来計画ワーキンググループ

荒木弘之、林 茂生、平岡 泰、宮園浩平

賞推薦委員会

小安重夫 (委員長)、相沢慎一、石川冬木、大隅典子、水島 昇

研究助成選考委員会

西田栄介 (委員長)、五條堀孝、月田早智子、三浦正幸、山本雅之

男女共同参画委員会

後藤由季子 (委員長)、塩見春彦 (副委員長)、井関祥子、大杉美穂、

佐藤 健、篠原美紀、竹内 純、原 英二、本間美和子

花岡文雄 (委員長)、岡田清孝、田中啓二

研究倫理委員会

〈研究倫理委員会下部組織〉

若手教育問題ワーキンググループ

小林武彦 (WG 座長)、上村 匡、後藤由季子、斎藤通紀、

塩見美喜子、白髭克彦

学術事業企画委員会 (30周年記念出版)

永田恭介 (委員長)、伊藤耕一、稻田利文、入江賢児、塩見春彦、

島本 功、菅澤 薫、中尾光善、林 茂生、三浦正幸、渡邊嘉典

「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子基金」

基金運営委員会 (任期：2010年10月1日～2014年12月31日)

山本正幸 (委員長)、岡田清孝 (副委員長)、阿形清和、近藤 滋、

塩見美喜子、嶋本伸雄、谷口維紹、小原雄治 (職指定委員)

国際会議支援・選考委員会 (2012年1月発足)

西田栄介 (委員長)、篠原 彰、杉本亜砂子、月田早智子、三浦正幸

科学政策委員会（2011 年 12 月発足）

中山敬一（世話人）、阿形清和、見淵弘三、小原雄治、小安重夫、
篠原 彰、田中啓二、谷口維紹、水島 昇、柳田充弘

〈科学政策委員会下部組織〉（2012 年 2 月発足）

研究環境・次世代教育担当ワーキンググループ

中山敬一（研究担当議長）、篠原 彰（教育担当議長）、見淵弘三、
影山龍一郎、近藤 滋、水島 昇

科学政策提言戦略ワーキンググループ

中山敬一（世話人）、阿形清和、石川冬木、小安重夫、田中啓二、
花岡文雄、小原雄治（オブザーバー）

日本分子生物学会 賛助会員一覧

(2012 年 10 月現在)

アサヒビール株式会社 食の基盤技術研究所
株式会社エー・イー企画
沖縄科学技術大学院大学
科学技術振興機構 バイオサイエンスデータベースセンター
科研製薬株式会社 創薬研究部
協和発酵キリン株式会社 研究本部研究推進部
株式会社コクサン
コスモ・バイオ株式会社 開発部
住友化学株式会社 健康・農業関連事業研究所探索生物グループアグリバイオ
第一三共株式会社 抗体医薬研究所
タカラバイオ株式会社 事業開発部
武田バイオ開発センター株式会社
株式会社ダスキン 開発研究所
田辺三菱製薬株式会社 研究本部研究企画部
東洋紡績株式会社 ライフサイエンス事業部
株式会社トミー精工
ナカライテスク株式会社 技術営業部広報課
日本甜菜製糖株式会社 総合研究所第二グループ
日本ベクトン・ディッキンソン株式会社 BD バイオサイエンス
日本たばこ産業株式会社 植物イノベーションセンター
日本たばこ産業株式会社 たばこ中央研究所
浜松ホトニクス株式会社 システム営業部
富士レビオ株式会社 研究開発部門研究支援グループ
フナコシ株式会社
株式会社ボナック
三菱化学株式会社 RD 戦略室
ヤマサ醤油株式会社 R & D 管理室
ライフテクノロジーズジャパン株式会社
ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社 AS 事業部
湧永製薬株式会社 湧永満之記念図書館
和研薬株式会社 大阪センター営業推進部

(31 社、50 音順)

■第 35 回（2012年）日本分子生物学会年会 公式サイト

URL: <http://www2.convention.co.jp/mbsj2012/>

■第 36 回（2013 年）年会ホームページは 12 月初旬に公開予定です。

URL: <http://www.aeplan.co.jp/mbsj2013/>

特定非営利活動法人

日本分子生物学会 事務局

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-11-5

人材開発ビル 4 階

TEL: 03-3556-9600 FAX: 03-3556-9611

E-mail: info@mbsj.jp

The Molecular Biology Society of Japan NEWS

日本分子生物学会 会報

(年3回刊行)

第103号 (2012年11月)

発行——特定非営利活動法人 日本分子生物学会

代表者——小原 雄治